

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の他に、ひだまり独自の「ゆったり、たのしく、寄り添って」という理念を掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や各ユニットに掲示することで共有し、ネームプレート裏に記載することで常に心がけて実践している。/ISO取得し、法人理念の元、毎年100%達成を目指している。/カンファレンスなどの場を通して話し合いなど行っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時に、契約書・重要事項説明書に基づき説明し、ご家族の同意を得ている。/理念を施設内に掲示している。運営推進会議、家族会、面会時などの機会から伝えるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時は積極的に挨拶するようにしている。又、地域の方からも挨拶されることが増えている。/地域自治会の回覧板を回すなどといったお付き合いも日常的である。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に加入しており、回覧板の行き交いや左義長などの地域行事に参加している。又、地域包括支援センターの発信による地域交流や、複合施設内で地域行事（夏祭りなど）を行っている。	○ 運営推進会議で、ひだまりの入居者様が地域でできるボランティア活動もあるのでは？という提案をいただいた。例えば、ゴミステーションの掃除や資源回収、登下校時の見守り隊など。具体的にできることを探している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	隣接する地域包括支援センターと協力・連携し、地域に開かれたホーム作りを目指して取り組んでいる。／昨夏には、第1回夏祭りを開催し、多くの方の協力・参加をいただいた。地域の恒例行事として定着させられるよう今年も実施予定である。／電話などで相談があればきちんとお伺いし、法人全体の問題として捉え適切な対応に努力している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	全職員が自己評価を行い、日々の業務のふりかえりや、新たな発見につなげている。／カンファレンスで検討している。／外部評価の結果は改善課題と受け止め、努力している。	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	入退居状況やヒヤリハット報告、日々の生活の様子を伝えている。／出席された方からいただいた質問や提案をその後のサービス提供に生かしている。	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	不明な点があれば、随時市に連絡して確認することで、各務原市高齢福祉課の担当者との良好な関係を築き、サービスを提供する上での疑問点に関する指示を仰ぎ、実践することで質の向上に努めている。	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	市や他事業所（包括）から資料などをいただいている。ご家族にも配布している。研修や、資格取得に向けてなど、各自が学んでいる。実際に入居者様にいらっしゃった。	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	研修、勉強会などで学び、虐待に対する職員理解を共通のものにし、実践している。スピーチロック等、特に注意している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約担当者が丁寧に説明している。ご家族からの疑問があれば理解いただけるよう、担当者よりお話をいただいている。／見学においていただくなどして、書面以外の方法での理解も深めていただいている。	○	一部の職員だけでなく、全ての職員が流れなどを理解できるようにしていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内にはふれあいボックス（ご意見箱）を設置し、第三者機関として利用者の苦情を受け付ける組織を設けており、随時苦情に対応し改善している。／入居者様との日常的なコミュニケーションから思いを伺うようにしており、日々の提供サービスに反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会のたびに、日々の様子をお伝えしている。その他、お預かりしている個人小口現金に関する毎月の金銭報告、特変時・依頼時の電話連絡も必要に応じ行っている。又、定期的に開催する家族会も報告の機会としている。面会のない方、遠方の方は不定期ではあるが電話連絡をし、報告を怠らないよう努力している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ふれあいボックス（ご意見箱）を設置し、第三者機関として利用者の苦情を受け付ける組織を設けており、随時苦情に対応し改善している。／アンケートの実施や、面会時や家族会などでご家族とコミュニケーションを図り、声を聞かせていただくようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場カンファレンスを定期的実施し、運営者・管理者・職員の意見交換を行っている。／定期的には上司と面談の機会があり、意見交換が可能である。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様やご家族の要望に対応できるよう、職員間で話し合っ、勤務の調整を行っている。／必要時カンファレンスの実施や、申し送りなどで提案し、決定することもある。その際は日誌の申し送り事項に記入している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループ全体で異動はあるものの、大規模な異動は行われない。又、異動のある時は情報共有を大切にしながら日々関わることで、入居者様の生活の中の一員となっている。最近、出産で退職した職員は入居者様、ご家族様への挨拶を機会を逃さないようこまめに行うようにしていた。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員（中途採用者も含む）は、法人内の研修がある。又、先輩職員がマンツーマンで指導にあたるエルダー制度があり、一定期間ごとの目標を設定、定期的な振り返り・評価の機会を設けている。また、定期カンファレンスでは職員の思いを聞き取り、実現に向けて全員で再確認している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内でのグループホームの交流はもちろん、市内及びグループホーム協議会を通じ、広く交流する機会はある。お互いよいところを見習う努力をしている。法人勉強会は、地域の公開講座としての開催もある。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会などで気軽に話せる職場作り、人間関係作りを心がけている。また、福利厚生として健康館利用の際の職員優待やリゾートトラストの利用もある。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的に上司と面談する機会が設けられており、自己の振り返り・目標設定などを中心としたアドバイスをいただける。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人の訴えをその都度傾聴し、不安や希望など思いを受けとめるよう努めている。出来る限り、入居者様が望まれることは実現したいと考える。また、少しでも不安が取り除かれ安心して過ごせるよう支援して行きたい。1対1でゆっくり話をする時間を毎日作るよう、ケアプランに落とし込んでいる方もいる。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の思いを伺う。職員も疑問や伺いたいことがあれば、相談させていただきようとしている。／面会のときに状況の報告をしている。別室でゆっくりお茶を飲みながら話をするように努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループ内に「支援会議」があり、担当者間でそれぞれのご利用者にとって最良の選択が出来るように、支援の検討をしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的にはお試し利用的な利用は行っていないが、グループホームに馴染めない場合は他施設での対応や在宅での支援など、ご家族と十分に話し合い、事前にご本人やご家族と会う機会を設け、それまでの生活歴や現在の暮らし方、身体状況や楽しみとされていることなどを把握した上で受け入れている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物、洗い物、掃除といった家事の得意な方、漢字やことわざ、昔からの風習などをよくご存知の方、世話好きな方など、お一人お一人の性格や得意なことを踏まえ、些細なことでも、出来る限り入居者様が出来ることは行っただけのよう、さりげない支援が出来るよう影のサポート役になれるよう努めている。入居者様から教えていただくことも多い。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の様子を写真を交えたりしながらお伝えしている。又、クリスマス会など、ご家族にも楽しんで参加していただけるような企画を練ったり、日常的な面会時にもご家族を巻き込んで過ごすこともある。お孫さんが他の方のよい刺激になることも多い。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	例えば、無口な息子様がいらした時は、職員が間に入り穏やかな雰囲気や会話がつながるように配慮する。ご本人から聞き取れた情報をご家族にお伝えるなど、関係を絶たない支援にも心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出ボックスを活用し、昔の写真などを掲示している。また、居室は昔から使用している家具などを持参していただいている。馴染みの人や場所をバックグラウンドアセスメントに記入していただき、スタッフ間の情報共有に役立て、会話のきっかけにもしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士の相性を把握し、出来る限りトラブルのないように対応している。例えば、フロアなどでの座席の配置、入浴の順番などを工夫するなど。入居者様同士で穏やかな時間が過ごせているときはそっと見守ることも大切にしている。他のユニットで過ごす時間を持つ方もいらっしゃる。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設に入所される際の情報提供などは行っている。また、隣接施設のメゾン・ペイネへ移行された方もおられ、入浴時、ボランティア来訪時など日常生活の中で関わりを持つことも多い。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドや日常の様子から、ご本人の思いを把握するよう努めている。また、やってみたいことなどを直接伺うこともしている。家事的なことなどで日課となる役割を持ち続けている方、散歩や買物など外出を好まれる方、不安を傾聴することで落ち着いて過ごせる方。言葉での表出が困難な方は、表情や雰囲気から思いを汲み取るなど、思いに寄り添えるよう努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントをご家族に記入していただき、過去の暮らし方を把握する手がかりとしている。又、入居者様に記入していただくアンケートも活用している。記入できない方には、聞き取りで対応。入居前に利用されていたサービスのある方は、事業所より情報をいただき活用もしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居時に一度総合的に把握し、その後関わりの中から日常の様子（ADLや情緒面）を徐々に把握していく。それぞれカルテ記事への記録やカンファレンスなどの活用により、スタッフ間の共有を行うことで、多くの視点で検討・把握していきける。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を元に、必要に応じて専門職（医師、看護師、栄養士など）とも連携を図り作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスの実施による定期的な見直しは、毎日のプランのモニタリングから、必要であればプラン変更（もしくは追記）している。定期的に見直すことで、ご本人の「今」に寄り添った計画の作成に努めている。→不安の訴えの強くなってきている方や、記憶の著しい低下の見られ始めた方など日々の記録で経過観察をするなど	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン用紙にケアプランの実施結果を毎日記入している。毎月評価し、職員間で話し合っている。カルテや日誌なども活用し、情報共有をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接の複合施設の機能を活かし、特養の入浴機会（機械浴）を利用してゆったり入浴していただいたり、デイサービスの運動機器や卓球を体験に行ったりと、その時々々の状況に応じて、出来る限りご本人の希望にこたえられるように配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的なボランティアの来訪あり、「音楽を聴きたい」という希望にはそえている。今後も、必要であれば、協力・支援を得られる機会を設けていくことも検討していく。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	隣接する複合施設（デイサービス・特養・包括）の行事には参加し、施設内にある美容院を毎月利用される方もある。今までにバーベキュー大会、餅つき、夏祭りへ参加している。／ご本人の様子や場合によってはグループ内の会議で検討することがある。	○	グループ内の老人保健施設の日常的な行事への参加も検討している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	隣接する地域包括支援センターと必要に応じ連携をとり、検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族とよく話し合っている。又、ホーム側から、書類や口頭で情報提供している。退去後のフォローも行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛けは、その方の生活歴や性格などを考慮しながら（「先生」と呼んだり、分かり易い言葉で話したりすることも）対応している。入居者様の行動に対し、不十分なところはさりげなくフォローするなどして対応している。記録物の記入・保管も気をつけている。（特に気にされる入居者様の目に入らないような環境づくりなど）		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の何気ない会話から希望を引き出したり、改めて伺ったりと、思いの表出が気軽にできる場面作りと関係作りに努めている。それらが困難な場合でも、出来る限りご本人の希望を伺えるよう、二者選択など選ぶことが出来るような伝え方をする。お一人ずつレベルに合わせた対応に努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	にぎやかに過ごしたい、少し自分の時間を持ちたい、散歩・買物にいきたいなど、その日の気分で過ごせるよう支援している。押し付けがないよう、ご本人のペースを大切に、体調や要望を最優先しながら場面場面での支援を心がけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	選べる方には選んでいただく。美容院なども行きつけがある方は、継続して出かけていただく。化粧やマニキュアも見守りで行ったり、お手伝いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付けなど、出来る方には役割として行っている。食べこぼしなどをさりげなくふき取るなどの配慮をしている。月に一度「自由メニュー」の日を設け、食べたいものの相談から、調理に至るまで入居者様と行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	甘い飲み物が好きな方や、砂糖なしがよい方など、ご本人の希望や趣向に合わせている。ご家族の面会時に持参されるおつまみでお酒を楽しまれる方、鮎の佃煮など、ご飯のお供の希望のある方もいっしょにお預かりもしている。食の細かい方で、食事の足しにお菓子（水羊羹など）を召し上がる方もいっしょに、個々に対応している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりに合うオムツを検討している。その結果、紙パンツから布パンツへと変更できた方もいっしょに。その方に合う排泄パターンからトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は決まっているが、入る時間帯はなるべく希望をかなえられるように対応している。また、長い入浴を好まれる方には、少し長風呂が出来るよう、様子をみながら支援もしている。一般浴、個浴（半機械浴）、機械浴と個々の身体機能にあわせ入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調やリズムに合わせた支援に努めている。生活リズムが整えられるよう、日中の活動を促すなどの配慮もしている。眠れない方には温かい飲み物で促したり、薬に頼らない支援を心がけている。また、空調や居室環境への配慮も行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な分野を見つけ出し、入居者様のこれまでの生活や力量に合わせて家事的なこと（洗濯、台所仕事、掃除など）を中心にそれぞれにあった役割を持てるよう支援している。楽しいと思えるアクティビティ（散歩・歌など）の計画もしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時個人小口現金はお預かりし、保管はホーム側で行っている。外出時の支払いなどは、遠慮されることが多いが、入居者様にさせていただけるよう場面作りと支援を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接するデイサービスセンターへの卓球や運動マシンの体験、ボランティア来訪時には特養へでかけている。散歩や買い物、ドライブなどの外出の機会を日常的に作り、希望のある方を中心に外出支援を行っている。	○	グループ内の老人保健施設の日常的な行事への参加も検討している。また、気候がよくなってきたら目的を持った外出を増やしていく予定である。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員の希望を聞き入れることは不可能ではあるが、希望を聞きできる限り行事として実現できるように支援している。(4月は花見、10月は紅葉狩りなど)		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を入居者様に記入していただいた。手、目の老化により書くことが困難になっておられる方も多いが、出来る方には、そういった機会を提供していけるよう支援していく。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問されたときは、居室へご案内し、ゆっくりと過ごしていただく。お茶をお出ししつろげるように配慮している。訪問時以外に電話での問い合わせ時なども、気持ちよく感じていただけるよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、身体拘束に対する職員理解を共通化している。現段階では身体拘束はない。		

岐阜県 グループホームひだまり

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こりうる事故については、入居・契約時に話をしている。転倒など事故があれば、必ずご家族に報告している。また、レベル変化などにより今後危険性のある方は、面会時などに早めに現状をお伝えしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的にバイタル測定をしている。普段との様子の違いに注意を払い、特変時はバイタル測定しリーダーへ報告、必要により看護師への報告・相談を行っている。日誌へ記録し、全スタッフが情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は服薬時間に合わせて色分けしている。服薬時はスタッフ二人で確認しながら行い、入居者様それぞれの薬が簡単に確認できるシステムとなっている。内服薬の一覧表があり、一目で調べられるようになっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、乳酸菌などの摂取、身体を動かすことなど、便秘の予防に努めている。起床時に冷たい水を飲んでいただいている方もいる。出来る限りマッサージなど行い、自然排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後行い、週に2回ポリデントでの義歯洗浄を行っている。また、週に一度、重曹を用いて舌苔の除去を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や医師、看護師と連絡を取りながら、入居者様にあった支援をしている。摂取能力や体調にあわせ、キザミ食、ペースト食などへの加工や一人ひとりに合わせた量での提供をしている。栄養補助食品を活用する場合もある。月に1回体重測定を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	グループ内に感染症対策委員会がある。感染症に対するマニュアルを作成し、実践を心がけている。流行の兆しなど速報の通達や、嘔吐時などの対応に関するマニュアルもあり、使い捨てエプロン、手袋、マスクをまとめて設置し、手段も示されている。インフルエンザに関しては、毎年予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきん、テーブル拭きなどは次亜塩素酸を薄めた消毒液を使用して消毒している。食材なども、納品の早いものが分かるように食材にメモをするなど工夫している。まな板や包丁は夜勤者が消毒漂白している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関付近に植木を置いたり、季節（クリスマスや正月、季節の花々）に合わせた飾り付けをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で暖かい雰囲気を感じていただけるよう、板張りの廊下や開放的な窓にし、調度品や台所の設備も、普通の家庭と変わらないものを使用している。畳やソファなどあり、自由な場所でくつろげるスペースがある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同のスペース内に畳や椅子のスペースがあるほか、少し離れたところにソファや椅子があったりと気分により思い思いの場所で過ごすことができる。また、1階のユニットは行き来が自由であり、居心地のいい場所の選択肢が多い		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、今まで使用していたタンスなど馴染みの家具や、写真や作品などの思い出の品を持ち込んでいただいている。ご家族の協力の下、個々にあった居心地のよい空間作りがされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日数回温度チェックを行い、換気や室温調整はこまめに行っている。床暖房も設備しており、外気温を考えながら入居者様の様子にも配慮し調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置もあるが、家具などに自然につかまって移動できる配置、構造にもなっている。また、木のぬくもりあふれるバリアフリー構造となっているため、歩行器・手押し車・車椅子などでも生活できる空間である。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者様の声に耳を傾け、日々の様子にアンテナをはり、不安や困っていることなどがなければ把握し必要によりサポートしている。トイレに「便所」「トイレ」などと分かり易いようにしてあるところがある。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯物干しや植物の水やりなど、バルコニーへの出入りは日常の風景である。外回りも一緒に散歩すること多い。隣接の複合施設への道は、週に2回の入浴時に通るため入居者様馴染みの通りとなっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・H20年1月より、施設内の清掃、改装から2ユニット体制であったが、3ユニット体制に戻り、各ユニットの個性が出てきている。自立支援中心のユニットでは、1階を自由に行き来でき、入居者様自身で「今日は別のユニットで食事したい」と話されたり、ユニットに関わらずスタッフに話をしにきてくださる姿が見られる。重度の方が多いユニットでは、ターミナルケアの方もいらっしゃるが、医師、看護師への毎日の報告から適宜指示がいただけ、ケアについても指導していただける。3ユニットあることで、入居者様にとって一番居心地良く過ごせるところを見つけられ、対応することが出来る。／・グループ内の複合施設が隣接しており、運動施設、入浴施設等を中心に様々な機能を活用することができる。また、複合施設の職員とも馴染みの関係をつくることができ、一帯で支援させていただける環境にもなっている。